

### 70年を経てなお引き継がれる創業精神

東海理化は「人が手掛けないことこそやる」という創業精神のもとに始まり、人とクルマが共生する社会をめざし、社会のニーズに応える優れた製品を世に送り出し続けて創立70周年を迎えました。その具体的プロセスは、2018年版の特集においてさまざまな製品・事業の展開としてグラフィカルに解説されており、このような図解は、多くのステークホルダーに技術力の幅広さや高さを伝えるものと評価できます。

また、最新技術・製品の紹介からは、現製品に対する弛まめ改善精神を感じるだけでなく(例:曲面タッチパッド)、社会のニーズを積極的に読み取り新しい製品を提案していくチャレンジ精神にも気付かされます(例:バーチャルキーを使ったシェアリングサービス)。これらは、70年を経てなお創業精神にもとづく企業理念が社員に浸透している証しであり、将来も引き続き『快適・安心・安全』がカタチになることを、ステークホルダーに予感させます。

### きめ細やかな人材育成と持続可能な環境マネジメント

優れた製品や活動の背景には優秀な人材の存在が欠かせません。2018年版では、人材育成に関する充実した取り組みのほかに、ワークライフバランスに関する取り組み(例:祝日稼働日の保育)が報告されています。ワークライフバランスの取り組みは、社員のやりがいや働きがいといった動機づけとなり、人材マネジメントを下支えするものとなります。

そのような人材によって推進されている環境面の取り組みについては、2050年にCO<sub>2</sub>排出量を半減するという高い目標設定と、それを実現するための具体的な計画や手法が明記されています。活動の例として、生産工程



などにおける省エネは、省エネ展示会として社内で情報共有する機会が設けられました。再生可能エネルギーへの切り替えについては、太陽光パネルの導入に焦点を絞り、パネル材ごとのメリット・デメリットに関する実証実験を行って分析されており、目標達成のために確実に取り組む様子が伺えました。

### 社会やステークホルダーの関心に コンプライアンス活動の報告

コンプライアンス(法令遵守)は、近年社会の関心が高い取り組みであり、法令遵守の仕組みのみならず、教育などの取り組みを明示していくことは企業にとって非常に重要であると考えられます。2018年版では、仕組みを図示するだけではなく役職ごとの役割も明確化されており、情報セキュリティについての活動も詳細でわかりやすいものとなっています。今後も社会やステークホルダーからの要請を読み取り、東海理化がどのような具体的な対策を講じているのかについて具体的に報告されることを期待しています。

全体として、事業・社会・環境活動がバランスよく報告されており、財務及び非財務の資本をもとに多様な価値を生み出していると感じさせるレポートになっていると思います。今後も、ステークホルダーを意識した丁寧かつわかりやすい報告を期待しています。



愛知淑徳大学 人間情報学部  
高原 美和 准教授

愛知淑徳大学人間情報学部准教授。大阪大学大学院人間科学研究所博士後期課程修了後、株式会社豊田中央研究所客員研究員、愛知淑徳大学人間情報学部講師などを経て、2016年4月より現職。博士(人間科学)。認知機能の加齢変化に関する研究や、高齢ドライバーの運転行動を分析し背景要因を検証する研究を行っている。

### 第三者意見を受けて

昨年に続き、高原先生にご意見をいただいたことに感謝致します。おかげさまで当社は本年創立70周年を迎えますが、自動車業界は今、100年に一度と言われる大変革期に直面しています。当社は、自動運転、電動化、コネクティッド、カーシェアリングなどの新技術によるクルマの変化に対応すべく、創業精神を大切にしながら、より高いレベルの「快適・安心・安全」を提供する次世代製品の開発に注力しております。また2050年にCO<sub>2</sub>排出量を半減するという目標に向けては、エネルギー利用の最小化と再生可能エネルギーへの移行を今後も計画的に取り組んでまいります。加えて、人材の育成・確保と労働の質向上のため、働く環境についても引き続き整備してまいります。今後も社会やステークホルダーの皆様の要請を読み取り、当社のさまざまな取り組みを具体的にわかりやすくお伝えするよう、本報告書のさらなる内容の充実を図り、より信頼とご期待をいただけるよう尽力してまいります。



取締役  
総務部・人事部・人材開発部・  
総合企画部・経理部 統括  
林 清宗